

2025年度
自己点検評価報告書
(高等課程)

2026 年 7 月 31 日

ECC コンピュータ専門学校

【自己点検評価報告書】

【大項目 1 教育理念・目的・目標】

基準	分析観点	評価の基準・観点	自己点検評価結果
小項目 1		教育理念、目的及び目標の設定等	
分析観点	1-1-1	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること	2

【評価結果の分析】

分析観点 1-1-1:

学校理念、教育目的、教育目標、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを明確に設定している。また、全ての項目は生徒に配布する「HANDBOOK」に明示すると共に、本校 Web サイトや各種媒体を通じて学外にも公開しており、生徒・保護者・企業等に対し広く周知している。

【今後の改善方策】

分析観点 1-1-1:

ゲーム、IT 業界において活躍できる人材を継続して輩出するためにも、高専連携を前提とした人材育成像について業界ニーズを踏まえて常に更新し続けていく。そのためにも企業連携の強化を図っていく。

【大項目 2 教育課程、教育の実施、学修成果】

基準	分析観点	評価の基準・観点	自己点検評価結果
小項目 1		教育課程の編成と授業科目	
分析観点	2-1-1	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	2
小項目 2		教育の実施	
分析観点	2-2-1	授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	2
小項目 3		単位・卒業認定	
分析観点	2-3-1	学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること	2
小項目 4		学修成果目標の達成状況	
分析観点	2-4-1	卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	2
	2-4-2	生徒が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	2

【評価結果の分析】

分析観点 2-1-1:

ゲーム・IT・CG の各分野における基礎を修得した上で、生徒自身の興味関心に応じた専攻を選択し、基礎から応用、実践へと段階的に学べる教育課程を編成している。

分析観点 2-2-1:

教育課程編成・実施方針(カリキュラムポリシー)に基づき、講義・演習・実習・企業連携授業・プロジェクト型授業を組み合わせた教育を実施している。また、各種教材は各科目の主任担当者が中心となって学習段階に応じて適切に選択している。成績評価基準については学則及び教務規約に基づき策定し、シラバスに明示している。知識・技能・作品成果・出席状況等の項目を基に、平常点、課題評価、試験結果等を組み合わせて評価を行っている。

分析観点 2-3-1:

卒業要件については学則及び教務規約に定めており、単位取得及び出席要件等を組織的に管理している。なお、卒業認定については学則及び教務規約に基づき、教務会議等を通じて審議した上で適正に認定することとしているが、2026 年度が完成年度のため卒業生は未輩出である。

分析観点 2-4-1:

学校が育てたい生徒像(卒業認定方針＝ディプロマ・ポリシー)を定め、それに基づくカリキュラム・ポリシーを定めている。段階的レベルアップカリキュラムを実施。その結果、学内外コンテストにて前身の高等部も合わせて多数実績が出た。(学外:ゲームクリエイター甲子園 U-18 2025 にて1作品が総合大賞・企業賞、1作品がセミファイナリスト(上位 30 作品)、大阪府こころの SOS ポスターコンテストにて1作品が最優秀賞、Cygames Creative Contest 高校生部門賞最終選考作品、pixiv 高校生イラコン 2025 にて佳作、大阪・関西万博コラボ SAKISHIMA LIGHTING ART にて入賞、WONDER SCHOOL!にて一般コース入賞／学内:ECC EXPO2026 にて専門学校生のゲーム部門にて1作品が企画賞・奨励賞、2作品が高等部・高等課程部門にてオーディエンス賞)

分析観点 2-4-2:

進路目標としては内部進学が前提ではあるが、生徒一人ひとりが希望する進路(就職・他校進学含む)を実現できるように、三者面談・企業連携授業のほか、山口学園全体の高専接続プロジェクトを実施。また W スクール先の ECC 学園高等学校との連携で多様な進路希望にも対応。その結果、前身の高等部の内部進学実績は一期生の 2024 年卒は 3/3 名(100%)、二期生の 2025 年卒は 18/22 名(81.8%)、三期生の 2026 年卒は 10/19 名(52.6%)。外部の希望学校への進学実績は 2025 年卒は 1/1 名(100%)、2026 年卒は 5/5 名(100%)。就職実績は 2025 年卒は 3/3 名(100% ※内就労支援が 1 名)、2026 年卒は 2/3 名(66.6%)となった。

【今後の改善策】

分析観点 2-1-1:

基礎の習熟を前提としたうえで、業界ニーズを踏まえた最新の技術・知識を学ぶ教育課程へと常に更新し続けていく。そのためにも企業連携の強化を図っていく。

【大項目 3 生徒の受入れ生徒支援】

基準	分析観点	評価の基準・観点	自己点検評価結果
小項目 1		生徒募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
分析観点	3-1-1	入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること	2
	3-1-2	生徒の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること	2
小項目 2		教育活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること。	
分析観点	3-2-1	カウンセラーの配置、相談室の設置など、生徒の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること	2
	3-2-2	留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える生徒に対し適切な対応を行っていること。	2
	3-2-3	学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、生徒の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	2
	3-2-4	生徒のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	2

【評価結果の分析】

分析観点 3-1-1:

入学者受入方針に基づき、募集要項及び入学選考基準を明確に定めている。学校見学会を通じて方針を周知し、公正かつ適正な入学者選抜を実施している。入学者選抜にあたっては複数の評価項目に基づき総合的に判定している。

分析観点 3-1-2:

入学定員に基づき、適正に入学者管理を行っている。

分析観点 3-2-1:

学園内各校に相談室が設置されており、カウンセラーが常駐しており、生徒は希望に応じてどの相談室も利用することが可能である。定期的に教務課職員と相談室の連携MTGが開催されており、生徒支援の体制の基礎となっている。

分析観点 3-2-2:

高等課程教務課が扇の要となり、学費・就学支援面などは事務局・就学支援担当、学習面は教務課・担任・授業担当者、心身の問題は保健室・相談室との連携を図りながら個別に対応を行っている。また、併修先であるECC学園高校と連携を行い、学修継続に向けた支援を行っている。

分析観点 3-2-3:

定期健康診断の実施や保健室運営を通じて生徒の健康管理を行っている。また、担任や相談窓口を中心に、精神的なケアを必要とする生徒への支援体制を整備している。また、スクールカウンセラーが常駐し、生徒および教職員の相談に対応している。

分析観点 3-2-4:

入学当初からキャリア教育を行い、生徒自身のキャリア形成に対する意識醸成を図っている。基本的には高専連携による長期的なキャリア指導を行っているが、早期の就職や進学を希望する場合には、併修先であるECC学園高校と連携した支援を行っている。

【今後の改善策】

分析観点 3-2-1、分析観点 3-2-2:

多様なバックグラウンドを持つ生徒への支援のためにも、学内連携に加えて保護者連携を強化することで、支援体制を構築していく。特に入学決定後に早期に保護者と連携する仕組みなどを強化していく。

【大項目 4 教育実施組織・教員】

基準	分析観点	評価の基準・観点	自己点検評価結果
小項目 1		教員の配置、募集、採用	
分析観点	4-1-1	教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	2
小項目 2		教員の組織編制等	
分析観点	4-2-1	学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	2

【評価結果の分析】

分析観点 4-1-1:

専門教育を行うための知識・スキルとともに、高等課程世代の生徒への対応の点から高等学校教員免許や指導経験を有する教員など、教員採用に向けた基準を明確にしている。

分析観点 4-2-1:

教育活動に必要な専任・兼任教員を適切に配置し、専門性を活かした教育を実施している。

企業経験を有する教員や業界第一線で活躍する講師を配置し、実践的な教育を行っている。また、計画的な採用活動により教育体制の維持・強化を図っている。

【今後の改善策】

分析観点 4-1-1:

教員の新規採用に加えて、既に在籍する教職員に対する FD・SD を通じて高等課程在籍生への教授方法や指導方法に関する研修を行い、育成という点からも教員確保を進めていく。

【大項目 5 教育環境】

基準	分析観点	評価の基準・観点	自己点検評価結果
小項目 1		教育環境の整備	
分析観点	5-1-1	教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	2
小項目 2		安全対策、防災組織	
分析観点	5-2-1	学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2

【評価結果の分析】

分析観点 5-1-1:

在籍生に対しては授業受講で必要となるスペックを有するPCを貸与すると共に、周辺機器、ソフトウェア、Wi-Fi、高スペックPC教室等の整備を行っている。なお、授業時間外でも利用可能な自由教室等も整備しており、授業外での学習を促進する取り組みを行っている。

分析観点 5-2-1:

学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、年間を通じて施設設備の安全点検、安全教育、避難訓練を実施した。また、危機管理マニュアルの見直し及び教職員研修を実施し、生徒の安全確保に努めている。

【今後の改善策】

分析観点 5-1-1:

授業内容の高度化に伴い、必要となる PC 等のスペックが向上することもあり、優先順位をつけた上での設備・機器の更新を図っていく。

【大項目 6 教育活動の基盤と改善・向上の取組】

基準	分析観点	評価の基準・観点	自己点検評価結果
小項目 1		中期事業計画と財務基盤	
分析観点	6-1-1	当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること	2
小項目 2		学校運営	
分析観点	6-2-1	学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)	2
小項目 3		学校評価の実施と改善活動	
分析観点	6-3-1	学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	2
	6-3-2	学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること	2
小項目 4		社会からの理解と情報の公表	
分析観点	6-4-1	当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	2

【評価結果の分析】

分析観点 6-1-1:

十分な財政基盤を有している。財務諸表等については、学校法人会計基準及び関係法令に基づき作成され、理事会等の承認を経て適切に管理されている。財務情報の透明性確保にも努めており、必要な手続きは概ね適正に実施されている。なお、当該情報は HP にて公開を行っている。

分析観点 6-2-1:

校長を学校運営の最高責任者としたうえで、高等課程の入口から出口までの管理権限を持つ EM(エンロールマネジメント)責任者を配置している。EM責任者主導の下で、入試課(募集)、教務課(教育内容・進路(ECC学園高校連携を含む))が組織的に学校運営を行っている。

分析観点 6-3-1:

今年度が高等課程完成年度であり、初の自己点検評価・学校関係者評価の実施・公開となる。

分析観点 6-3-2

本校の学校評価規程に基づき、校長を責任者として各種評価委員会を組織し実施している。なお、今年度が高等課程完成年度であり、初の自己点検評価・学校関係者評価の実施・公開となる。次年度以降、専門課程と同様に毎年度の実施を行う。

分析観点 6-4-1

学校運営の状況は全てHPで掲載している。特に教育活動や学修成果については速報性を考慮し、学校ニュースとして適宜WEB公開を行っている。

【今後の改善策】

分析観点 6-2-1:

適切な運営を継続的に実施するため、人材育成などを強化していく必要があり、採用活動に加えて FD・SD を通じた育成を図る。

以上